

出資法人等経営状況報告書

1 作成年月日及び担当部署

作成年月日	平成30年2月26日	担当部署	産業観光部 観光振興課 施設経営管理室
-------	------------	------	---------------------

※以下は平成29年12月31日現在の内容です。

2 法人等の概要

法人等名称	リフレ上越山里振興株式会社				
代表者名	代表取締役社長 田中 弘邦				
	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤				
	<input type="checkbox"/> プロパー <input type="checkbox"/> 市派遣 <input type="checkbox"/> 市兼務 <input checked="" type="checkbox"/> その他				
所在地	新潟県上越市大字皆口601番地				
設立年月日	平成10年12月18日	資本金	120,000千円	市出資割合	87.8%
設立目的	食と健康をテーマとしたリフレッシュビレッジ事業を通して、市民の財産ともいえる上越市西部中山間地の緑豊かな自然を活用し、地域農林水産業の活性化を図るため。				

3 組織

(単位：人)

		理事・ 取締役	監事・ 監査役	計	内訳			
					プロパー	市派遣	市兼務	その他
役員	常勤							
	非常勤	11	1	12			1	11
	計	11	1	12			1	11
職員	正職員			13	13			
	臨時職員			8	8			
	パート職員等							
	計			21	21			

4 主な事業

(1) くわどり湯ったり村、ヨーデル金谷、ゆったりの家の管理運営
(2) 文化振興に関する事業
(3) 観光広告及び宣伝に関する事業
(4)
(5)
(6)
(7)

5 事業実績（概要）

【第20期の経営状況】

- ・ 第20期の営業収益（売上高）は、前期との比較で、8,355千円の減（5.0%の減）の156,935千円となりました。営業費用では、売上高の減少に伴う売上原価の減少や、効率的な人員配置による人件費の削減等に努め、前期との比較で、8,207千円の減（5.0%の減）の154,419千円となりました。この結果、最終的な当期純利益は912千円となり、3期連続の単年度黒字を達成し、第20期末の欠損金は179,332千円となりました。
- ・ くわどり湯ったり村では、利用者数の減少により宿泊や日帰り等の売上高が減少した一方、経費の削減を図りました。ヨーデル金谷では、営業活動を強化したことによりレストラン売上とブライダル売上がともに増加しました。この結果、それぞれの施設において、営業黒字を達成しました。

【施設別実績】

(1) 主な取組

- ① くわどり湯ったり村
 - ・ レストラン部門の強化や新宿泊プランの提案による顧客の獲得
 - ・ 組織体制の強化や総合サービス体制等による収益構造の安定化
- ② ヨーデル金谷
 - ・ SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等を活用した営業活動
 - ・ 顧客ニーズを重視した事業展開

(2) 利用者数実績

施設名	第18期 (H27.1～H27.12)	第19期 (H28.1～H28.12)	第20期 (H29.1～H29.12)
くわどり湯ったり村 (うち宿泊者数)	51,434人 (3,598人)	49,439人 (3,381人)	47,119人 (3,063人)
ヨーデル金谷	19,345人	19,309人	20,954人
ゆったりの家	1,215人	1,054人	1,262人
合計	71,994人	69,802人	69,335人

(3) 施設別の損益状況

施設名	区分	第18期 (H27.1～H27.12)	第19期 (H28.1～H28.12)	第20期 (H29.1～H29.12)
くわどり湯ったり村 (ゆったりの家を含む)	売上高	121,021千円	113,852千円	103,915千円
	営業利益	4,454千円	1,274千円	1,173千円
ヨーデル金谷	売上高	54,740千円	51,438千円	53,020千円
	営業利益	1,649千円	1,390千円	1,343千円
合計	売上高	175,761千円	165,290千円	156,935千円
	営業利益	6,103千円	2,664千円	2,516千円

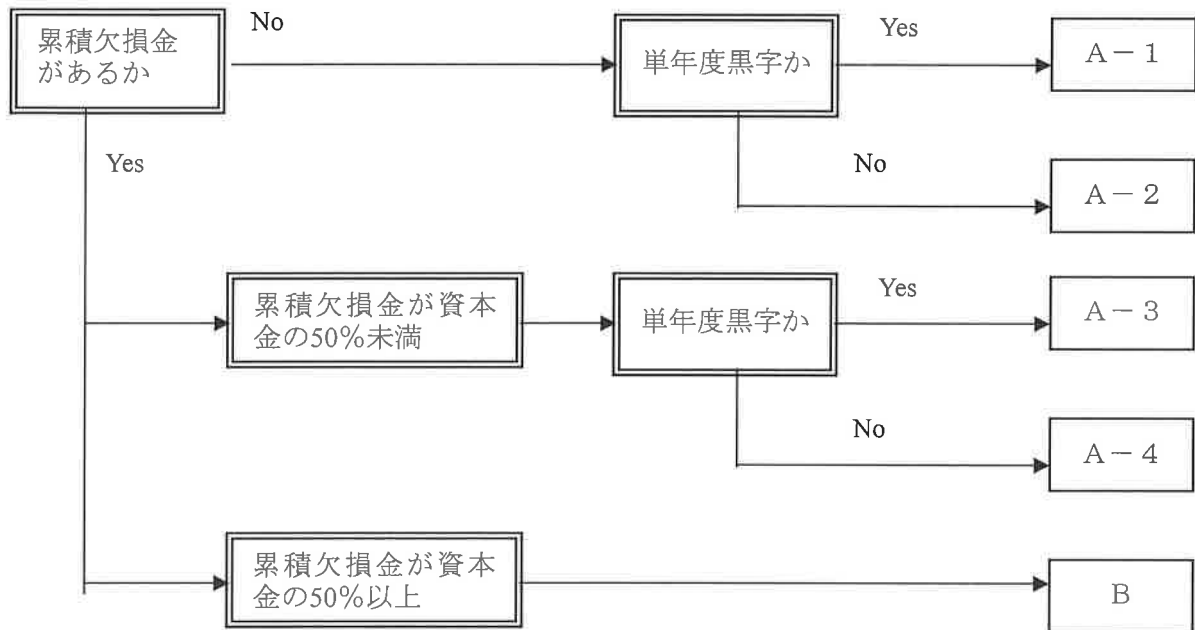
6 財務状況

(単位：千円)

項 目		第18期	第19期	第20期	備 考
		自 平成27年 1月 1日 至 平成27年 12月 31日	自 平成28年 1月 1日 至 平成28年 12月 31日	自 平成29年 1月 1日 至 平成29年 12月 31日	
損益計算書	営業収益（売上高）	175,761	165,290	156,935	
	営業費用	169,658	162,626	154,419	
	売上原価	47,054	42,565	42,040	
	一般管理費・販売費	122,604	120,061	112,379	
	営業利益	6,103	2,664	2,516	
	営業外収益	1,271	1,176	910	
	営業外費用	1,721	1,517	1,363	
	経常利益	5,653	2,323	2,063	
	特別利益	0	0	0	
	特別損失	2,770	0	0	
	税引前当期純利益	2,883	2,323	2,063	
	法人税等	1,091	1,045	1,151	
	当期純利益	1,792	1,278	912	
項 目		平成27年12月31日現在	平成28年12月31日現在	平成29年12月31日現在	備 考
貸借対照表	資 産	51,938	38,656	32,413	
	負 債	113,460	98,900	91,745	
	純資産	△61,522	△60,244	△59,332	
	資本金	120,000	120,000	120,000	
	剰余金・欠損金	△181,522	△180,244	△179,332	
その他	0	0	0		

7 経営状況の予備的診断

予備的診断フロー



評価	B
----	---

	評価基準	備考
A-1	累積欠損金がなく、単年度黒字の場合	引き続き経営努力を行う。
A-2	累積欠損金がなく、単年度赤字の場合	複数年の経過を注視しながら引き続き経営努力を行う。
A-3	累積欠損金が資本金の50%未満で、単年度黒字の場合	経営改善の努力を要する。
A-4	累積欠損金が資本金の50%未満で、単年度赤字の場合	経営改善の一層の努力を要する。
B	累積欠損金が資本金の50%以上の場合	事業の見直し等も含めた抜本的な経営改善を要する。

※ この評価に関連する特殊な事情又は要因など特記すべき事項

- 第14期（平成23年）より累積欠損金が資本金を上回り、純資産がマイナスとなる債務超過の状態が続いているものの、3期連続の単年度黒字の計上により、債務超過額は減少傾向にあります。

※資本金に対する累積欠損金の割合

第18期：151.3% 第19期：150.2% 第20期：149.4%

8 市の関与の状況

(1) 市の委託額

(単位：千円)

内訳		平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
①	指定管理料 (※1)	44,884	44,418	44,418	
②					
③					
④					
⑤					
計		44,884	44,418	44,418	

※1 リフレッシュビレッジ施設 (くわどり湯ったり村、ヨーデル金谷、ゆったりの家) の合計額

(2) 市の財政援助額

(単位：千円)

内訳		平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
①	補助金 (助成金)				
②	貸付金				
③	損失補償 (※2)	39,998	39,721	39,855	借入限度額 40,000 千円
④	債務保証				
⑤	その他 (※3)	1,625	1,636	1,625	シニアパスポート減免補填金
計		41,623	41,357	41,480	

※2 金額は、対象となる借入金の期末 (12月31日) 残高

※3 平成29年度は予算額

9 今後の経営計画等

(1) 次期事業計画 (事業年度の変更により、第21期は平成30年3月末までの3か月となります。)

第22期以降に繋がる営業方針の策定を行い、「選択」と「集中」を見極めるとともに、顧客満足度を低下させないように、お客様が快適にご利用いただけるよう努める。

① 会社全般

- ・ 今後の方向性を導き出し、ミーティングや意見交換の場を設定し、問題の早期解決に努める。
- ・ 来期以降に繋がる営業方針の策定と、徹底した経費管理を図る。

② くわどり湯ったり村

- ・ 集客イベントの開催や、ITを活用した効率的な営業活動による利用者の獲得を図る。
- ・ 第21期以降の年次計画を策定し、「売上増強」を図り、「設備・備品管理」を徹底する。

③ ヨーデル金谷

- ・ 自社プライダグや歓送迎会等の獲得に向け、「プラン」や「備品」等の拡充を図る。
- ・ 収益率の改善に向けたメニューの価格を見直す。

(2) 中長期経営計画

平成28年2月に第19期以降3か年の中期経営計画を策定し、単年度黒字を継続的に計上することによる債務超過の解消を図るため、経営改善に向けた努力目標を掲げた。

施設別の主な努力目標は、次のとおりである。

① くわどり湯ったり村

- ・ 地域の特徴等を活かしたメニューの開発
- ・ 相互サービス体制による効率化

② ヨーデル金谷

- ・ 高単価商品の獲得
- ・ 広告やDM等による営業の強化

第 20 期 報 告 書

(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

事業報告書

貸借対照表

損益計算書

株主資本等変動計算書

個別注記表

監査報告書

リフレ上越山里振興株式会社

第 20 期営業報告書

(平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日まで)

営業の概況

全社の概況

当期は前期に引き続き損益改善を押し進めた結果、経営安定化が定着してきた期でありました。外的要因ながら、電気・ガス・灯油などエネルギー関係の価格の上昇など厳しい状況ではありましたが、それを補うだけの収益構造の見直しにより、昨年に引き続き黒字計上致すこととなりました。合わせまして、損益改善の柱である総合サービス体制による業務経費の見直しに伴い負担が増える中、経営安定化に向け一丸となり取り組んでくれた従業員には感謝するものであります。

当期の施設別営業概況は次のとおりです

◆くわどり湯ったり村

昨年対比で売上を落としたが、前期から引き続きの販売費及び一般管理費の縮小による安定した損益バランスにより五期連続の黒字計上となりました。4月に厨房職員の退職に伴う人員交代があり、その際には関係各所にもご尽力をいただきましたが、新たな厨房職員による「新宿泊プランの提案」「仕出しオードブルの提供」また、メニューの充実によるレストランの売上・客単価の増加など、結果としてより組織の強化に繋がりました。また、今期より正式に地域を上げてのイベントとして「くわどり謙信公トレイル大会」が開催され、地域内外の方々に当施設をアピールする機会となりました。総合サービス体制による少人数での営業活動の一環として、インターネットを積極的に活用し、トップページのリニューアルに始まり、「予約サイトを活用した新規顧客の獲得」「新宿泊プラン・新レストランメニューの案内」また、「キャンペーンや営業案内など速報性を持った告知」などにも活用致しました。実際に、台風 21 号による道路決壊に伴う集客低下を補うための利用促進キャンペーンをHPにて告知させていただき、多くのお客様よりご好評を頂きました。上記の結果、組織体制強化、総合サービス体制の定着、収益構造の安定化が表れた期となりました。

◆ ヨーデル金谷

【売上】●昨年苦戦した流れから対応に苦慮しましたが、前年を上回り安堵しております。委託金やリフレ券販売を除く本業実績は前年比で、売上 109.8%・客数 104.1%・単価 105.5%と構成 3 要素全てが上昇。●要因は「宴会」の獲得で、HP や SNS、雑誌広告や DM などが貢献しました。ホテルや式場・老舗割烹に次ぐ「第三の会場」として定着しつつあり教育機関や製造工場にはお得意様も多く、半年/1 年先の予約も増え、各種イベントと合わせ年間の売上サイクルが確立しつつあります。●「婚礼」については課題も多く、参加人数など「運」の部分もあり一概に前年との比較は困難ですが、全体的な婚礼需要減少の中で売上増になったことは好材料でした。●宴会等の「貸切り」が増えたにもかかわらず通常営業も売上/客数が伸びている。内容と価格のバランスを考え、手作り改装を進めるなど顧客のニーズにこだわったスタッフ一同の賜物と捉えたい。【原価・販管費】●原価率は前年対比で 1.28%の減。●エネルギー関係の価格上昇により水道光熱費が微増。●売上増のなか原価・販管費ともほぼ前年並みに維持できたことが出来ました。3 年連続の単年度黒字ですがいずれの年度も利益は微小であるため、安定した黒字化に向け更なる努力をしております。

◆施設別売上高・営業利益

	くわどり湯ったり村	ヨ ー デ ル 金 谷
売 上 高	103,914,703	53,020,366
営 業 利 益	1,172,596	1,343,410

事業の成績及び財産の状況の推移

区 分	第 19 期	第 20 期
	平成 28 年 1 月 1 日から 平成 28 年 12 月 31 日まで	平成 29 年 1 月 1 日から 平成 29 年 12 月 31 日まで
売 上 高	165,289,607 円	156,935,069 円
経 常 利 益	2,322,490 円	2,062,500 円
当 期 利 益	1,277,553 円	911,878 円
1 株 当 たり 当 期 利 益	532 円 31 銭	379 円 95 銭
総 資 産	38,655,903 円	32,412,820 円
純 資 産	△60,244,540 円	△59,332,662 円

会社の概要

(1) 主要な事業内容

- ・ 上越市の所有若しくは管理する不動産及び温泉保養施設、農林水産加工施設、地域食材供給施設の管理運営に関する事業。
- ・ 飲食店の経営
食料品、酒類、清涼飲料、観光土産品、たばこ、医薬品、新聞、書籍及び日用品雑貨の販売
- ・ 文化振興に関する事業

(2) 株式の状況

- ・ 会社が発行する株式の総数 2,400 株
- ・ 発行済み株式総数 2,400 株
- ・ 当期末株主数 130 人
- ・ 株主の内訳（平成 29 年 12 月 31 日現在）

株 主 名	持ち株数	持ち株比率
上越市	2,106	87.8%
えちご上越農業協同組合	100	4.2%
くびき野森林組合	20	0.8%
頸城自動車株式会社	20	0.8%
協同組合ウッドワーク	10	0.4%
上越市漁業協同組合	10	0.4%
桑取川漁業協同組合	10	0.4%
一般株主	124	5.2%

(3) 事業所の状況

- ・ くわどり湯ったり村 上越市大字皆口601番地
- ・ ヨーデル金谷 上越市大貫2丁目17番40号

(4) 従業員の状況 (平成29年12月31日現在)

- ・ 男性 9名 (内 臨時 2名)
- ・ 女性 12名 (内 臨時 6名)
- ・ 合計 21名 (内 臨時 8名)

(5) 主要な借入先

えちご上越農業協同組合 (当座貸越)

平成29年12月31日現在、39,855,288円

上越信用金庫 他 (長期借入)

平成29年12月31日現在、29,307,500円

(6) 取締役及び監査役 (平成29年12月31日現在)

地 位	氏 名	担当又は主な職業
代表取締役	田中 弘邦	上越観光コンベンション協会 会長
副 社 長	大竹 和夫	頸城自動車株式会社 取締役常任顧問
取 締 役	野口 和広	上越市 副市長
取 締 役	米山 均	協同組合ウッドワーク 理事長
取 締 役	仲田 紀夫	上越市漁業協同組合 代表理事組合長
取 締 役	平井 民夫	桑取川漁業協同組合 代表理事組合長
取 締 役	佐藤 一男	桑取地区町内会長協議会 会長
取 締 役	高橋 敏光	金谷地区町内会長会 会長
取 締 役	伊藤 正一	地域代表
取 締 役	曾我 文隆	地域代表
取 締 役	笹原 智子	地域代表
監 査 役	丸山 義雄	谷浜地区町内会長連絡協議会 会長

損 益 計 算 書

自 平成 29年 1月 1日 至 平成 29年 12月 31日

リフレ上越山里振興株式会社

(単位：円)

科 目	金 額	
【売上高】		
売上高	156,935,069	156,935,069
【売上原価】		
期首商品棚卸高	1,753,656	
当期商品仕入高	42,167,780	
期末商品棚卸高	1,881,767	42,039,669
売上総利益		114,895,400
【販売費及び一般管理費】		112,379,394
営業利益		2,516,006
【営業外収益】		
受取利息	18	
受取配当金	600	
雑収入	909,607	910,225
【営業外費用】		
支払利息	1,347,731	
雑損失	16,000	1,363,731
経常利益		2,062,500
税引前当期純利益		2,062,500
法人税及び住民税額		1,150,622
当期純利益		911,878

販売費及び一般管理費明細書

自 平成 29年 1月 1日 至 平成 29年 12月 31日

リフレ上越山里振興株式会社

(単位：円)

科 目	金 額	
給与手当	34,185,718	
臨時雇入費	12,638,050	
退職金	1,821,257	
法定福利費	6,873,351	
福利厚生費	255,484	
消耗品費	3,019,581	
事務用品費	473,667	
賃借料	3,657,159	
保険料	2,119,809	
修繕費	452,736	
租税公課	106,300	
減価償却費	5,208,417	
通信費	561,924	
水道光熱費	15,093,126	
支払手数料	524,311	
荷造発送費	15,381	
広告宣伝費	425,177	
接待交際費	47,500	
イベント費	281,219	
施設維持管理費	7,727,571	
リネン費	2,596,792	
燃料費	12,153,233	
車両掛費	1,212,188	
新聞図書費	116,073	
諸会費	87,500	
クリーニング費	13,200	
会議費	178,708	
寄付金	10,000	
雑費	523,962	
販売費及び一般管理費合計		112,379,394

株主資本等変動計算書

自 平成 29年 1月 1日 至 平成 29年 12月 31日

リフレ上越山里振興株式会社

(単位：円)

科 目	変 動 事 由	金 額
【株主資本】		
【資本金】	当期首残高及び当期末残高	120,000,000
【利益剰余金】		
(その他利益剰余金)		
繰越利益剰余金	当期首残高	△180,244,540
	当期変動額 当期純利益	911,878
	当期末残高	△179,332,662
利益剰余金合計	当期首残高	△180,244,540
	当期変動額	911,878
	当期末残高	△179,332,662
株主資本合計	当期首残高	△60,244,540
	当期変動額	911,878
	当期末残高	△59,332,662
純資産合計	当期首残高	△60,244,540
	当期変動額	911,878
	当期末残高	△59,332,662

個 別 注 記 表

自 平成 29 年 1 月 1 日
至 平成 29 年 12 月 31 日

I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法を採用しております。

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

法人税法の規定に基づく旧定額法および定額法を採用しております。

ただし、取得価格10万円以上20万円未満の資産については、法人税法の規定に基づく3年均等償却を採用しております。

無形固定資産

ソフトウェアは社内における利用期間（5年）に基づく旧定額法を採用しております。

リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

II. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

41,459,069円

消費税及び地方消費税の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

III. 株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式

普通株式（発行済株式）

当期末株式数（発行済普通株式）

2,400株

IV. リースにより使用する固定資産に関する注記

その他リース物件に係る重要な事項

リース契約により使用している固定資産

貸借対照表に計上した固定資産のほかリース契約により使用しているものは次のとおりです。

車輛運搬具 4台

リース期間 7年及び5年並びに1年

当期のリース料

2,115,496円

V. 1株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額

-24,721円


1株当たりの当期純利益金額又は当期純損失金額

379円

監査報告書

リフレ上越山里振興株式会社の平成29年1月1日から平成29年12月31日までの第20期事業年度の会計帳簿、貸借対照表、損益計算書、事業報告書、株主資本等変動計算書、個別注記表について監査いたしました。いずれも適法かつ妥当であることを認めます。

平成30年1月30日

監査役 丸山義雄 

第21期 事業計画

第21期は会計年度の変更に伴う短期間の期となり、当施設の閑散期にあたる冬期間であることから、日々の営業においては取りこぼしのないように、また、来期（来年度）に向けた準備期間と捉え今後に繋がる営業方針の策定を行い「選択」と「集中」を見極める期間といたします。経営安定化の為の経費削減につきましては引き続き行いますが、開業20年を経て経年劣化などによる施設設備・備品のメンテナンスが必要な時期を迎えます。経費負担が見込まれる為、関係各所と協議するなどし顧客満足度を低下させず利用者が快適にご利用頂けるよう努めます。

1 会社全般

- ① 月次試算表をもとに細かな分析を図り、今後の方向性を経営・運営の立場から導き出す。社内はもとより関係各所との定期的なミーティングを持ち、意見交換の場を設定し、問題の早期解決に努める。
- ② 集客の落ち込む冬期間の営業になることをふまえ、「来期にもつながる売上確保の施策」「徹底した経費管理」を図る。

2 くわどり湯ったり村

- ① 集客イベントを開催し、施設の認知度を高める。また、イベントによる複数部門の循環型利用を推し進め、売上の上昇を促す。
- ② 閑散期の集客として積極的にITを活用した効率的な営業活動を行い、売上及び新規顧客の確保に努める。
- ③ 会席料理、レストランに続く第三の柱として「中食（仕出し・総菜など）」の提供を試験的に取り入れる。
- ④ 現場レベルの細かなミーティングを行い、年次計画を策定し来期以降も含めた「売上増強」「設備・備品管理」に努める。

3 ヨーデル金谷

- ① ブライダル教会「アンニヴェルサリオ」の閉館に伴う売上減少対策の立案・実行。
- ② 自社ブライダルの獲得を強化するための「プラン」「備品」等の拡充を図る
- ③ メニューの価格改定の実施（収益率の改善）
- ④ 歓送迎会の獲得に向け・プラン立案・広告・営業等の実施
- ⑤ 施設内外の設備や備品の修繕及び入替の実施（又は要望の提言）

第21期 事業計画

損益計算書

自平成30年1月1日 至平成30年3月31日

(単位：円)

科 目	第21期計画	備考
売上高	36,281,000	
宿泊売上	4,800,000	
日帰売上	3,500,000	
風呂売上	2,100,000	
レストラン売上	14,000,000	
売店売上	1,600,000	
チケット売上	0	
ブライダル売上	0	
その他売上	10,281,000	
売上原価	8,950,000	
期首商品棚卸高	0	
期末商品棚卸高	0	
外注費	0	
厨房仕入	6,500,000	
飲料仕入	1,600,000	
売店仕入	850,000	
その他仕入	0	
売上総利益	27,331,000	
販売費及び一般管理費	29,213,000	
給与手当	8,800,000	
臨時雇入費	2,500,000	
賞与	0	
退職金	0	
法定福利費	1,800,000	
福利厚生費	50,000	
消耗品費	500,000	
事務用品費	120,000	
賃借料	980,000	
保険料	380,000	
修繕費	300,000	
租税公課	20,000	
減価償却費	733,000	
貸倒引当金繰入	0	
旅費交通費	0	
通信費	150,000	
水道光熱費	3,700,000	
支払手数料	120,000	
荷造発送費	5,000	
広告宣伝費	200,000	
接待交際費	0	
イベント費	0	
施設維持管理費	2,000,000	
リネン費	600,000	
燃料費	5,600,000	
車両掛費	400,000	
新聞図書費	30,000	
諸会費	15,000	
クリーニング費	10,000	
会議費	100,000	
打合費	0	
雑費	100,000	
営業利益	-1,882,000	
営業外収益	80,000	
受取利息	0	
雑収入	80,000	
営業外費用	450,000	
支払利息	450,000	
雑損失	0	
経常利益	-2,252,000	
特別利益	0	
特別損失	0	
税引前当期利益	-2,252,000	
法人税及び住民税		
当期利益	-2,252,000	